科	目名	精神看護学特講				構Ⅱ	分野·必選別· 単位数	専門科目 (精神看護学)	選択必修	2単位	
担当教員		◎教授	松澤和正								
課程		博士	:前期	配当年	F次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義	
授業の概要		精神看護の臨床実践のあり方を振り返りつつ問うには、研究的な視点やアプローチが欠かせないが、臨床実践とその研究的アプローチとの間には架橋困難な乖離や課題が山積している。本授業では、このような現状を乗り越え、臨床実践と研究的アプローチとがほとんどシームレスに接近し、新たな臨床実践や臨床研究のあり方を求めるためのいくつかの論点や視点を提起し議論できることを目的とする。									
授業の 到達目標		精神看護領域における臨床実践とそれを探求する研究的アプローチのあり方を整理・検討し議論することを通して、臨床実践と研究的アプローチの実践的な統合のあり方や方向性を概説できる。									
回数		担当者			行動目標						
授業計画	1	松澤	和正	教	授	科目概説 授業の目的、内:	容、方法、評価等	を説明できる。			
	2	松澤	和正	教	授	精神看護の実践	方法としての看護	過程について歴史的	整理・検討と評価が	できる。	
	3	松澤 和正		教	授	精神看護の実践方法としての看護過程について現状と課題を整理・検討し議論できる(1)					
	4	松澤	和正	教	授	精神看護の実践	方法としての看護	過程について現状と	課題を整理・検討し請	養論できる(2)	
	5	松澤	和正	教	授	看護過程におけ	る臨床的事実の記	己述・再構成の意味と	課題について整理・	倹討し議論できる(1)	
	6	松澤	和正	教	授	看護過程におけ	る臨床的事実の話	已述・再構成の意味と	課題について整理・杮	倹討し議論できる(2)	
	7	松澤	和正	教	授	看護過程におけ	る臨床的事実の記	己述・再構成の意味と	課題について整理・	倹討し議論できる(3)	
	8	松澤	和正	教	授		実践が研究的アス対し議論できる(1)	プローチでもありうる「マ	研究的臨床実践」の領	条件・方法・課題に	
	9	松澤	和正	教	授		実践が研究的アフサレ議論できる(2)	プローチでもありうる「マ	研究的臨床実践」の創	条件・方法・課題に	
	10	松澤	和正	教	授		実践が研究的アスサレ議論できる(3)	プローチでもありうる「マ	研究的臨床実践」の創	条件・方法・課題に	
	11	松澤	和正	教	授	「研究的臨床実践計し議論できる(り方法論としてのカテ	ゴリー化分析の可能	性について整理・検	
	12	松澤	和正	教	授	「研究的臨床実践計し議論できる(り方法論としてのカテ	ゴリー化分析の可能	性について整理・検	
	13	松澤	和正	教	授	「研究的臨床実践計し議論できる(り方法論としてのシー	クエンス分析の可能	性について整理・検	
	14	松澤	和正	教	授	「研究的臨床実践計し議論できる(り方法論としてのシー	クエンス分析の可能	性について整理・検	
	15	松澤	和正	教	授	「研究的臨床実」	桟」のための包括的	りな整理・検討と議論	ができる。		
事前事後学修 の内容および それに必要な 時間		【事前学修】		授業内容に関する指定された文献			状等を事前に読み:	込み、自分なりの理解	¥ができるようにしてま	らくこと。	
		【事後学修】		授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。							
		【必要時間】		当該期間に30時間以上の予復習が必要。							
教科書		適宜文献等を指定する。									
参考書		適宜文献等を指定する。									
成績評価の方法および基準		レポート50%、口答発表50%で評価する。									
その他履修上 の注意事項			試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行うので有効に活用すること。 この科目は、本専攻の学位授与方針2と関連していることに留意し授業に取り組むこと。								